

建設業の多角化支援

平成18年11月10日

東京工業大学統合研究院

米田雅子

産業界と地域の新たな交流で『業(なりわい)』の創成を

(農林水産業の場合)

農林水産業ベースの産業クラスター
加工・販売・観光・特産品化・・・

農・工・商・建が、縦割りの壁を超えて力を
合わせて地域づくりができる体制へ

「商」「工」「建」のノウハウを「農」に活かした「商工農建協調」

都市と地方のパートナーシップ

農業／農業農地制度見直し、企業参入促進(農作業受託を農業者に認定、農外企業への融資拡充、特定法人の要件緩和・・・)
林業／広域長期の計画に基づく森林整備実施、製材・加工・流通の革新(森林整備に特定利用権設定、国・県有林に時価会計導入・・・)
漁業／育てる漁業、漁場整備、養殖・加工・流通革新(漁業権等の見直し、漁業組合員資格の緩和、規格外魚類の利用・流通・・・)
金融制度(縦割り金融の一本化、農林ベースの融資ノウハウ育成、地域活性化ファンド創設・・・)
土地利用(都市計画法と農振法の見直し、未利用の工業団地や造成地や廃校を野菜工場等に、用途変更の補助金要項の緩和・・・)
農林水産＋他業種の兼業会社の公式認定等

異業種・都市からのアプローチ

時代に合わせて法律・制度・仕組みを変えよう

地域企業型農業育成と流通革新

農業の問題

高齢化と絶対的担い手不足
農産物輸入自由化の圧力
零細農業⇒強い担い手育成

地方の中堅・中小企業

公共事業の縮小による地域経済の衰退。地場の建設会社、食品会社など、農業と建設業が共に衰退したら地域がもたない。
地域のために、新しい企業的農業をおこしたい

異業種、都市からのアプローチ

都会の消費者ニーズに合った新しい生産・加工・流通体制。例えば、地域のブランド化、観光化、直販、ネット利用、共同販路開拓、トレーサビリティ、医食同源の食品開発、安心・安全の追求など。観光交流、定年帰農を支える重労働作業代行異業種の技術・人材・資金の投入。例えば、安価で多目的な農業機械の開発、野菜工場革新、食品開発、新しいアグリビジネスモデル開発、エタノール開発、有機リサイクルなど

新しい農業の芽(例えば建設帰農)

- ・土作り→健康志向の作物づくり
- ・循環型農業、写真記録→トレーサビリティ
- ・工程管理のノウハウ→分散農地の耕作に適用
- ・企業経営の視点→アグリビジネスへの挑戦
- ・農業名人の技を企業の器で育てる
- ・農場整備が得意→耕作放棄地の復活
- ・機械に強い→建設機械の農業転用・改造
- ・施設建設・土地造成→植物工場など施設栽培

異業種と都市との連携で
新しい地域企業型農業の芽を育てよう
流通革新をおこそう

<新しい企業型農業への挑戦(地方の実践)>

- (1) 農作業・農業コントラクター…分散した農地の耕作に工程管理を持ち込む→分散農地の生産革新(北海道)
- (2) 農家のフランチャイズ…グリーン堆肥製造→安全でおいしいほうれん草・野菜→ブランドの確立(岩手)
- (3) 農業名人と企業の新たな連携…米作り名人・無農薬栽培法→本物のコメ作り全国展開
- (4) ブルーベリーで地域おこしへ…ブルーベリー大規模栽培、加工、販売、観光(島根)

林業再生へのシナリオ

<産業界に期待される役割>

林業の技術革新、生産革新に向けて人材、技術、資金を投入しよう。

森林経営計画(所有権の団地化、路網整備、広域中長期計画・・・)
設計手法開発、製品開発(地元の木を無駄なく使う・・・)
伐採方法の技術革新(機械化、合理化、計画化、列状間伐・・・)
木材加工の革新(技術革新、設備投資、JAS認証取得、集成材・・・)
木材流通(山⇒加工⇒ユーザー、地産地消・・・)
森林バイオマスの開発(チップ利用、ペレット、エタノール・・・)

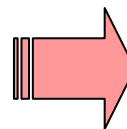
<一つのシナリオ～建設参入による林業再生>

販路:ユーザーである建設業が地元の山の木を無駄なく
使う設計、工法を開発する

伐採:列状間伐(建設会社の兼業で作業林道、全材搬出)、計画
伐採・植林、機械化と計画化の推進

流通:森林⇒加工⇒ユーザーへ直送

加工:乾燥機、プレカット工場、集成材工場、バイオマス設
備等のセンター広域地域に設置



コストダウン、品質確保で
自立型の林業復活

ただし、林地の細分化された所有権、国・
県有林の潜在赤字など課題多い

提案:森林整備へ特定利用権設定、

国・県有林に時価会計導入

育てる漁業で沿岸漁業復活へ

＜産業界に期待される役割＞

漁業の技術革新、流通革新に向けて、人材、技術、資金を投入しよう

漁場の再生（磯焼対策、藻場再生、漁礁づくり・・・）

養殖技術の開発（新しい魚種、窒素系廃棄物除去、水質浄化・・・）

漁法の技術革新（定置網漁、底引き網漁の改良、漁網の改良、クラゲ対策）

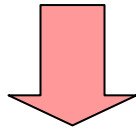
フレキシブルな漁港設備の開発（複数種類の魚や規格外の魚に対応）

加工・流通の革新（冷凍設備開発、CAS、海水氷、規格外魚の食品開発、履歴明示・・・）

水産資源の多目的活用（バイオマス、真水化、深層水、塩にがり・・・）

食物連鎖、自然生態系を生かした水産資源計画

魚のブランド化、観光展開、地域資源との組み合わせによる地域産業化



魚を育て、計画漁で沿岸漁業の復活

ただし、漁業権の見直し、漁業協同組合の会員資格の緩和が必要（高齢化と担い手不足、閉鎖的）